

## 平成24年度第1回広島県肝炎患者支援手帳作成検討委員会議事録

### 1 日 時

平成24年6月1日（金） 14：00～14：45

### 2 場 所

県庁本館 3階 301会議室

### 3 出席委員

茶山 一彰委員（広島大学病院病院長）【委員長】

坂口 孝作委員（福山市民病院副院長）【委員長代理】

松田 尚美委員（広島市健康福祉局保健部保健医療課保健指導担当課長）

正脇 和則委員（呉市福祉保健部保健所副所長（兼）健康増進課長）

松岡久美子委員（福山市保健福祉局保健部健康推進課長）

多田 誠子委員（北広島町保健課主幹）

佐藤 博子委員（広島県東部保健所保健課長）

仲本 典正委員（広島県健康福祉局薬務課長）

齋藤 厚子委員（広島県健康福祉局健康対策課健康増進担当監）

※代理出席 健康対策課主幹 森原 千秋

岡馬 重充委員（広島肝友会代表）

石田 彰子委員（備後肝友会事務局長）

### 4 議 事

肝炎患者支援手帳の作成について

- （1）手帳の作成方針について
- （2）手帳の記載項目について
- （3）手帳の活用方法について

### 5 担当部署

広島県健康福祉局薬務課肝炎対策グループ

TEL （082）513-3078（ダイヤルイン）

### 6 会議の概要

（事務局） （資料1から資料3について説明）

（委員長） 従来から「健康管理手帳」ですから、名称はこのままでよろしいですね。岡山は「もも肝手帳」といった、画期的な名前をつけていますが。

（仲本委員） 県でも話があったのですが、「肝臓」あるいは「肝炎」という言葉を出した方がいいのか、出さない方がいいのか、出すとかえって肝炎ということが人に分かってしまうということもあるのではないかと、という意見がありました。

- (岡馬委員) 分かりやすいのは、肝炎という言葉がある方が良いと思いますが、患者の立場からいうと、本当に思っていることで、肝炎という言葉はない方が良いという方もいらっしゃると思います。
- (坂口委員) 福山市民病院でもクリニカルパスを作っていますが、「肝炎」という言葉は出さずに、「私のカルテ」ということで、患者さんにこの名前を聞きましたら、「肝炎」という言葉を付けるのは、できれば控えてもらいたいということで、「私のカルテ」という名前になっています。
- (委員長) それでは、「健康管理手帳」ということで。それからサイズですが、これについては、いかがでしょう。この A5 サイズでいいですね。
- (岡馬委員) あまり大きくなりすぎてもいけないですし。
- (石田委員) 備後肝友会の世話人に他県の手帳を回覧して意見を聴いたのですが、県の今のサイズでは小さすぎるということで、御年配の方が多いものですから、字が小さすぎるということでした。この北海道の手帳ですが、北海道の大きさが一番良い、それからこのビニールのカバーがしてあって、中にいろいろはさめるところが良い、検査結果をもらったりしたときに。大阪府のものよりも少し小さいのですが、これが一番良いという意見でした。
- (委員長) それは何というサイズなのですか。
- (事務局) B6 ですね。
- (石田委員) 女性はバックが小さいから、あまり大きいと入れにくく、小さすぎると字が小さいから見えにくいという意見が世話人の中からありました。
- (岡馬委員) 患者さんはこの手帳と、場合によってはお薬手帳をお持ちで、そうすると、お薬手帳の大きさと少し差別化するというか、違った方が、例えば中にはさんで使えるとうことができるのかなと、両方持つておかないと、後で薬をもらうことになるので、そういうことを考えると、ある程度大きさが違う方が良いのかなと思ひまして、そういうことなら A5 サイズが良いのではないかと思います。
- (委員長) お薬手帳はどのサイズなのですか。
- (仲本委員) だいたい、A6 サイズが多いと思います。
- (委員長) まず、サイズを決めたいと思いますが、A5 サイズで良いですか。
- (坂口委員) 内容にもよりますが、検査数値みたいなものを書くのであれば、A5 サイズの方が扱いやすいと思います。
- (委員長) これくらいにすると、少し薄くなりますね。厚さは大阪府ほどのくらいまででしょう。それでは、中身の議論をしたいと思います。
- (仲本委員) 先程石田委員からありましたカバーの件ですが、これは県で考えさせていただくということで良いでしょうか。
- (委員長) 予算の問題もあると思いますが、県の方に一任したいと思います。あとは大まかな内容と、どなたにどの部分を作成していただくかということですが。
- (岡馬委員) 患者さんからよく出てくるのは、やはり検査項目の意味でして、この

健康管理手帳にも少し入っていますが、この数値はどういう意味なのかとういことが知りたいという声がよく出ていて、どの程度まで書くのかということがあるのですが、この検査の意味はこういうことですよということが分かるのが良いと思っていて、そのことは入れていただければと思います。

(委員長) 病気の説明については、ある程度今のものにも書いてありますが、これを改訂して新しい治療などを入れれば良いと思います。検査項目についても、後ろの方にある程度は書いてありますね。このくらいで良ければ、ただあまり膨大になってもどうかというのがあります。これも改訂して、もう少し付け加えるものがあれば、入れていただければと思います。あとどなたが担当するかということですが、何か意見がありますか。

(坂口委員) これは、最初の紹介状ですが、これは残すのでしょうか。普通ハード的には紹介状の返事などもコンピューター管理で送りますし、これだと診療情報提供料は取れない。だから、それぞれの患者さんの紹介状をもらったときには、診療情報提供料を取ります。診療報酬のこともありますし、これではなかなか取りづらいですので、これは今あることは私も知っていましたが、殆ど活用できない状態です。かかりつけの先生方からの紹介状を私たちのところに持って来られるときにも、ここに書いて送ってこられたものは見たことがないです。だから、この手帳には患者さんのデータを残しておくというのは良い場合があるかもしれませんが、紹介状としては、あまり意味がないように思います。

(岡馬委員) 私も現在の手帳が作られたときにこれを見させていただいたのですが、一つ良い点は、患者が自分の情報をそこに持っていくというのはそれなりの意味があると思いますし、今度別のところに行ったときにも、その医療機関で把握できて、伝えられるということがあると思います。

(坂口委員) 別のところに行ったときに、その医療機関での検査データを書き入れるような項目を作っていけば、その程度で良いのではないかと思います。

(岡馬委員) 書き込んでいくページを作るのは良いのですが、今度は更新しなければならぬ。いっぱいになったら更新しなければならぬので、そういうことであれば、これは最小限にしても良いのではないかと思います。実態では使われぬと思います。

(委員長) 実際これはどなたが書き込むかという問題もありますので。

(石田委員) 検査項目が個々の病期によって違いますので、検査項目を例えば、キャリアの場合、慢性肝炎の場合、肝硬変の場合、肝がんの場合とあって、こういう項目に記入してくださいというような付録みたいなものがある、あとは白紙というか、欄があって自分で書き込めるような、いっぱいになったらもう書けないということではなくて、それまで患者は必要なデータを毎月とか、2ヶ月に1回とか結果が出たら、そのデータを自分で拾っていく別な紙があれば良いという意見を世話人が申し込んで、これとこれとこれというように検査項目を書き込んでいない方が、

使い勝手が良いという意見が出ています。

(岡馬委員) もし作るのだったら、別冊にして書き込むような形とか、少し工夫した方が良いでしょう。中に入れ込んでしまうのではなくて。

(委員長) 最近はデータを書面で渡すお医者さんが多いですからね。あまり書き込んでいたら、手間がかかります。それよりは、白いスペースを作って、これは大事だというものを書いた方が良いでしょうね。

(岡馬委員) 説明文については、お医者さんの立場で書かれると、患者の側からではよく分からない、1つの用語が分からないとその先が分からないということがあって、できたら細かいところにも配慮していただければと思います。

(仲本委員) それは用語の解説ということですか。

(岡馬委員) 用語を患者が分かるような形で。例えば、肝生検のデータで、これはどういう意味でということ、患者さんは用語の知識がある人ばかりではないですから、ポイントを読んで分かるような、肝臓がこうなっているから、この数値が上がるとこういうことだというふうに、書かれてある方が良いでしょう。

(仲本委員) それはお医者さんに、患者さんが分かるように書いてもらいたいということでしょうか。

(委員長) まず患者さんの立場になって書いてみて、患者さんに見てもらって、分かりませんよということがあれば、また直していくということの良いのではないのでしょうか。要はどこまでかみ砕くかということでしょうか。

(岡馬委員) 簡潔に、しかも分かりやすくした方が良いでしょう。ある程度図表を使ったりしてビジュアルな感じにできればと良いと思います。

(委員長) それでは、作るときにはそういうことを頭に入れてということ。県の方で何か中身について、案がありますか。

(事務局) 医学的な部分については、広島大学病院の高橋先生にお願いをしたいと考えています。制度については、私ども行政の方で考えます。

(委員長) 他に、特にこういうところに注意してほしいというところはありますか。

(岡馬委員) もう1つはできたらですが、相談窓口を少し入れておいていただけると、こういうときには、どこへ相談したら良いのだろうということがありますので、電話番号あるいはメールアドレスがあれば、それも入れていただきたいと思います。

(委員長) 肝疾患相談室の電話番号を入れると良いでしょう。あとは生活上の基本的な注意点というのはあった方が良いでしょうか。

(岡馬委員) 例えば、バランスのとれた食事と言われても、いったい何を食べたら良いのだろうというふうに思いますしね。書こうとしたら、そういう書き方しかないのかなと思いますが、受け止める側からすると、一体どうすれば良いのかというふうになりますので、むしろ、ある程度そういうことについてはどこへ聞いたら良いのかという、問い合わせ先を入れて

いただく方が良いと思います。

(松田委員) ウイルス肝炎研究財団から別冊で作られているものがあるようですが、どのようなものですか。

(事務局) (保健指導時に配布している、ウイルス肝炎研究財団作成の冊子「HBVとB型肝炎の知識」及び「HCVとC型肝炎の知識」を回覧)

今後は、今回作成する手帳に盛り込んでいく予定です。

(石田委員) 日本肝臓病患者団体協議会の手帳には、日常生活の注意点で、食事療法のポイントとか、運動についてとか、他人に感染させないためといった項目があります。

それから、夏にかけては刺身を食べないとか、C型では鉄分の摂取を控えるとかということも書いてあると良いと思います。

(委員長) インターフェロンやリバビリンやテラプレビルの治療を実施する前には、少しはとっていいということもありますし、あまり一概には言えない部分もあります。

(松岡委員) このはがきの部分(連絡票)は残すのでしょうか。これは、行政の方に返ってくることにしているもので、1年後にも受診しましたということが記録できるものに実際にはなっているのですが、なかなか来ません。全く来ないというわけではないですが、来ない方に対して、保健所の保健師が訪問したりして、医療機関を受診したかどうかフォローしています。実際にはこれはあまり使われていなくて、来ないけども、その方には訪問するという感じです。医療機関から定期的に知らされていた方やどこかで脱落された人が、行政に回ってきて、行政から医療機関を受診してくださいねという受診勧奨ができれば、これはいらないのではないかと思います。

(仲本委員) この後御検討いただく、肝疾患患者フォローアップシステムにも係ってくると思います。

(松岡委員) そこで、このはがきについて考えれば良いのではと思います。

(仲本委員) 肝疾患患者フォローアップシステムがうまくまわれば、あまり必要がなくなるのではないかと思います。

(委員長) はがきが1回来るというよりも、その後もずっと受診しているかどうかということが大事になってきますから、はがきはなくても良いという考え方はありますね。

(岡馬委員) 今の手帳が作られた当時は、かかりつけのお医者さんと専門のお医者さんとの連携がまだうまくできていない時でしたので、今の作り方と当然、状況が変わっていますので、今は連携ができていますので、それに合わせて作っていただきたい。今の状況に合わせた方が良いということです。

(委員長) それでは、今のことを参考にして、作っていただくことにしまして、次に資料4について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) (資料4について説明)

- (委員長) 第2回の開催が12月の予定ですが、日程調整が難航しそうですが、もう少し早くできないでしょうか。例えば11月ではどうでしょうか。
- (事務局) 印刷発注の関係があり、遅くとも12月には決定したいと考えておりましたが、また次に行う肝疾患患者フォローアップシステムと同日に行いたいと考えております。ただ、そちらが11月では間に合わないのではないかと考えております。
- なお、第2回の検討委員会までは、手帳の案等について、メールが可能な方は、メールで送付して御確認していただくことにしたいと思いますので、メールアドレスを後日お聞きすることを御了解いただきたいと思います。メールをされない方は、郵送でさせていただきます。
- 県で集約し、また御意見をいただきながら、最終案を詰めていきたいと考えております。
- (石田委員) 日本肝臓病患者団体協議会の手帳が12冊、北海道の手帳が1冊あります。内容的に参考になりますので、どなたに預ければ良いでしょうか。北海道の手帳は1冊しかないので、お返しいただければと思います。
- (委員長) 県の方で預かっていただきたいと思います。それでは、本日の議題は以上です。

## 7 配布資料一覧

### [資料]

- 資料1 健康管理手帳に関する調査結果
- 資料2 広島県肝炎患者支援手帳の作成方針(案)
- 資料3 他県における肝炎患者支援手帳の作成例
- 資料4 広島県肝炎患者支援手帳作成スケジュール(案)

### [参考資料]

- 参考資料1 広島県肝炎患者支援手帳作成検討委員会設置要綱
- 参考資料2 広島県肝炎患者支援手帳作成検討委員会委員名簿